# 種智院大學 同窓會報

第18号
平7成3年月31日
京都市南区壬生通八条下る東寺町545
種智院大学同窓会


## 阪神大震災 心より お見舞い申し上げます


種智院大学同窓会長
池　田　瑩　輝


１月17日未明に発生致しました「兵庫県南部地震」によります阪神大震災は、各地に甚大なる災害をもたらし、その惨状は筆舌に尽くし難く、ここに被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。とりわけ、被害を受けられた同窓会会員各位、本学関係各位には衷心よりお見舞い申し上げ、一刻も早い復興をお祈り申し上げます。

今般の地震においては、わが真言宗門関係寺院も、多くの被害を受けました。とくに、大本山須磨寺蓮生院住職・本会会員の富永龍心師の訃報に接し、関係各位の悲報を聞き、また各寺院の倒壊の実状を知り、胸の痛む毎日を過ごしております。私事ながら、拙寺も倒壊の被害に会い、ライフラインの復旧もままならぬ日々のなか、多くの方々の物心両面の御支援を頂き、「ここまでくれば」の思いのなかから、わずかであっても復興の望みを持つことができるのではないかとの期待が生まれたのでありました。

母校では、学生諸君が自治会に地震救援対策本部を設け、義援金の呼び掛け、救援物資の搬送にと、献身的に邁進される等、マスコミで報道されているボランティア活動にも劣らない活躍をされました。また、母校の在学生にも被害に会われた方が少なからずおられましたが、全員無事とのことでありました。未来を担う、後輩諸君がこの震災を契機に立ち上がってくれました。

真言宗においても、各派それぞれが、被害状況の調査、義援金の拠出、募集、ボランティアの派遣など積極的に取り組んでおります。

被害に会われた皆様方の暗澹たる思いは、如何ばかりかと、哀切の思いを致すことであります。そして、この大変苦しい時に、持てる力を少しでも発揮せんとする人々の思いと行動を見るにつけ、この事態を何としてでも乗り切らなくてはと、決意を新たに致すものであります。

この未曽有の地震から、多くのことを学び、弘法大師の教えを受け継ぐものとして、会員の皆様が、それぞれの立場において、できうる限りの力を出されんことを祈念し、ここに、重ねて、お見舞い申し上げます。

# 三学会、本学にて開催

前号で紹介したように、昨秋は、本学にとって学会ラッシュとなった。①10月23・24日に日本仏教社会福祉学会第29回学術大会、②11月4・5日に日本密教学会第27回学術大会ならびに第32回密教学芸賞授賞式、③仏教史学会第45回学術大会。以上、三学会が挙行された。これらについて、紹介していきたい。

**①日本仏教社会福祉学会**は、本学が全国唯一の仏教福祉学コースを有することで、早くから開催を望まれていた学会である。同学会は仏教系大学のうち、社会福祉学部、あるいは学科を有する大学が中心となって設立された。

今大会では、最初に学長今井圓明猊下が導師となり、本学学生有志諸君が職衆となり、物故者慰霊法要を営んだ。この法要は恒例のものであったが、本学では宗教部を中心に、綿密に準備を重ねて荘厳なうちに挙行されることになった。これほど威厳にみちた法要ははじめてという声が会場から聞かれるほどであった。

記念講演は、本学の卒業生である六波羅蜜寺住職の川崎龍性先生による「空也上人の生涯・その思想と実践」と題するものであった。川崎先生の宗教活動を裏づけるように、空也上人の思想・実践が詳細に、しかもわかりやすく述べられた。また、川崎先生の国際的な福祉活動であるスリランカとの交流もあわせて紹介され、まさに現代に生きる空也上人の実践ともいうべき福祉実践について、熱をこめて講演された。ここでは、とくにスライドも使用され、スリランカの実情もはっきりと見ることができ、先に非業の死をとげた前大統領との交流も写し出され、きびしい現実のなか、懸命の活動であることを知らしめたのであった。

午後からは、今大会のメインテーマである「仏教福祉と国際家族年」と題し、シンポジウムが次のとおり行われた。

シンポジスト

中垣　昌美氏（龍谷大学）

岩見　恭子氏（高野山大学）

安部　行照氏（大阪西本願寺常照園）

コーディネーター

菊池　正治氏（九州龍谷短期大学）

ここで、仏教福祉が「国際家族年」にどう関わり、何を果たすことができるかについて、白熱の討論がなされた。

このあと、総会、懇親会に移ったが、とくに、総会では、今大会の本学の取り組みのすばらしさに対し、異例の感謝の決議がなされた。

翌日は、自由研究発表会となり、2部会11の研究発表がなされた

総会決議にもあるように、今大会の事務局は、仏教福祉学研究室（主任　桂泰三教授）が受け持ち、夏休み前から休暇返上で取り組み、綿密なスケジュール調整、プログラム作成、シンポジウム企画等々、山積された課題を懸命な取り組みで処理してきた。本学の仏教福祉コースは全国唯一のものでありながら、学会を引き受けるのは、はじめてというハンディを見事に克服したのであった。ここに仏教福祉研究室の労が認められ、学生の意見を封じこめ、発展を忌むこれまでの風潮が全面的に解消され、明るく、正常な大学のあり方が実現できたことを意味づけることにもなった。

その意味で、事務局としてその任を担った同コースの先生方、そしてその手助けに活躍された学生諸君の功績は大なるものがある。

**②密教学会**は、4年に1度、同学会を構成する学会が当番となるものである。本学の場合前回、仮校舎であったため、総本山醍醐寺にて開催した。

今大会は、開会式を本学北村太道教授司会のもとで進行。挨拶に立った密教学会理事長松長有慶先生は、今大会が種智院大学で開催された意義を述べられた。それによると、本学は、カリキュラム改正、コース増設など、近年その教育成果を著しく高め、その急成長ぶりは、学界の注目するところであると強調された。

今井学長、頼富学部長のもと、本学が進めてきた教育改革は、たんに本学のみならず、今や、学界の注目するところとなっていたのであり、入試にみる競争倍率の急激な上昇は、たんに、ベビーブームを反映したのではなく、教育成果に裏づけられたものであったのである。この一連の本学の地道な歩みにたいし、わが国密教学研究の第一人者である松長有慶先生をとおして、賛辞を頂いたことは、本学関係者共通の喜びとするところであり、誇りであるというべきであろう。

なお、密教学芸賞は、当日止むなく欠席の小林海暢真言宗長者に代って、本学の今井圓明学長より次の方々に授与された。

牧尾　良海師（元大正大学々長）
村主　恵快師（追手門学院大学教授、元中山寺長老）
密波羅鳳洲師（高野山大学教授）
東　　智学師（高野山大学教授）

記念講演は、元京都大学教授・牧田諦亮先生による「庶民経典と密教」であった。牧田先生は、この中で、先生年来の研究テーマである偽経研究の立場から、独自の見解を明快に論じられ、聴衆を引きつけること大であった。

個人研究発表は、4・5日の両日にわたったが、最終日の研究発表には百名近くの方々が来聴され、例年にない熱心さを示した。最後の研究発表となった高野山大学・高木訥元教授は、多数の熱心な聴衆を前に、学会の最後までこのように盛況であることは、種智院大学ならではのことだと心からの賛辞を送られたのであった。

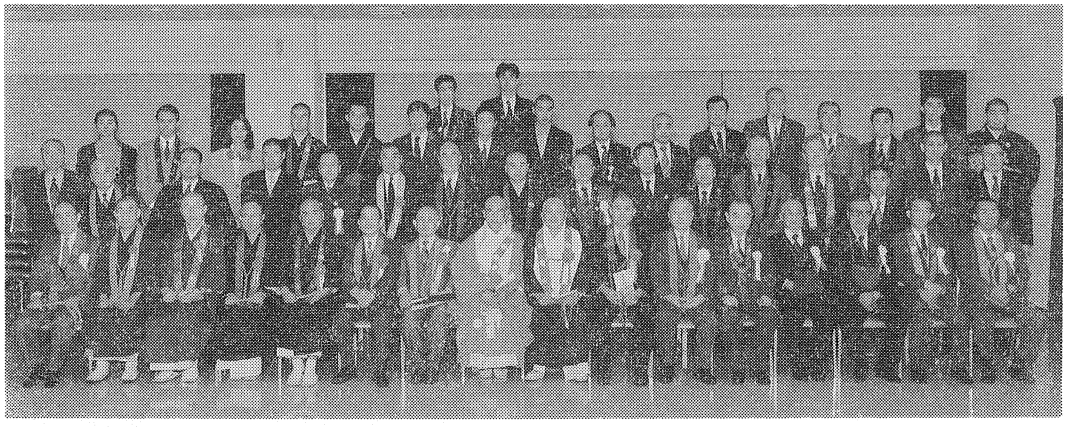
また、今大会においては、本学々生有志諸君が献身的に大会運営の補助として活躍された。その熱心で手ぎわよい活動ぶりに、参加された方々から絶賛を受けたことであった。

③**仏教史学会**は、京都の仏教系大学を中心に学術大会を開催してきたが、今般、本学がはじめて引き受けることになった。同学会の評議員である頼富本宏学部長を中心に準備が進められてきた。午前は日本・東洋二部会で、午後は日本・東洋合同部会で計12の研究が行われた。約150名の方々が全国各地より参加され、特別講演は、高野山大学・高木訥元教授の「最澄と空海をめぐる若干の問題」で、平安新仏教を代表する二人の祖師に対する先生の見解が示された。とくに弘法大師「三教指帰」と「聾瞽指帰」との相違を主張する先生の立場は、聴衆を圧倒するものがあり、先生の独自の見解が随所に披露された。

なお、総会で議長を務められた関西大学・藤吉真澄教授は、その挨拶の中で、種智院大学が学会開催に十分な環境を有していることが今大会によって明らかとなったので、是非とも、仏教系大学の開催輪番に加わってほしいとの提言がなされ、会場からも賛同の拍手がなされたことであった。

以上、三学会の開催について報告したが、ここで、共通してみられることは、本学での開催がこれほどの成功をおさめることができるのに、これまで何故、学会を開催しなかったのかという素朴な疑問である。平成2年度、新校舎が竣工し、校舎が拡充して環境が整ったことも確かである。しかし、この間、開催した学会は、日本・チベット学会と日本仏教学会だけであった。今年一度に三学会も受け入れることは、他の仏教系大学でもみられないところである。

この成功の理由は、何といっても、学問に前向きの姿勢をとり、開かれた大学を目指す大学の体質改善の成功が最大の理由ではないか。質の向上を目ざす、新校舎竣工の理念が、ここに結実したといっても過言ではない。勧募活動に献身的な努力をされた同窓会の方々の努力が、ここに開花したともいえよう。〝狭い小さい〟が本学の代名詞のごとき状況を打破し、社会に誇れる、開かれた大学を目指す方向が、ここにきて、偉大な成果となってあらわれたのであった。



日　本　密　教　学　会

学会開催は、大学の力量に関わることであり、これを成功せしめたことは、今後につながる明るい材料である。本学の飛躍と発展を、同窓会が見守り、支え、担っていくことが必要ではないだろうか。

なお、三学会の本学関係者の研究発表は次のとおりである。

①仏教社会福祉学会

空海の密教における福祉理念
—大日経を題材として—　宮城洋一郎
湯通堂法姫

仏教社会事業学説史の研究(2)　中垣　昌美
池田　和彦

大正期の仏教更生事業　村井　龍治
滝村　雅人

鹿児島県の過疎問題と仏教福祉　桂　泰三

②日本密教学会

仏画における結界表現の種々相　中村　幸真

護諸童子陀羅尼経と童子経曼荼羅
川村　知行

智拳印について—文献と作例から—
頼富　本宏

③仏教史学会

成就者インドラブーティの系譜　野口　圭也

平安末期の弘法大師伝　宮城洋一郎

## 善通寺派　宗務総長に 高吉清順師

真言宗善通寺派では、平成6年11月26日の臨時宗会において、総長に高吉清順師を選任。蓮生善隆管長の親任を得て、同日付で、高吉新内局が発足した。高吉師は、昭和19年卒業、曼荼羅寺住職。なお、庶務部長に大林教善師（昭和47年卒業、甲山寺住職）、新設の教学兼財務課長に菅智潤師（昭和47年卒業、長寿院住職）が就任した。

## 公開講座に参加して

蓮沼雅春（昭和23年）

大師堂より食堂へ、お参詣りをすませ、大学に。講座の開始まで、知人に逢えたらと、心待ち。これが、毎月の行事となってきた。

一昨年の密教シリーズ、昨年の仏教福祉シリーズ、そして今の仏教シリーズと続けている。頭の老化防止の為にと、昨年の同窓会でも誘いをかけるも、学校では逢え無い、残念である。北村先生、頼富先生、苅谷先生の講義には、想像を逞しくして耳を傾けていた。心ときめき、青春時代である。このような熱心さを思いおこす。仏教福祉の講義に福祉の歴史を知り、弘法大師をしのび、また仏教シリーズのなか特に平安宮廷文学と仏教では龍口先生の、平安時代における、死、罪の概念と、往生要集の影響など、すこし違う方面から掘り下げて見ておられ、楽しく学べた。このように時には皆さんがたも、この公開講座に、ぜひ出席され、青春して下さい。今月は、中川先生の観無量寿経の世界を学びます。

（同窓生の、伊万里市・報身寺　原　浩雄師の冥福を祈念して）

## 社会福祉士国家試験に合格して

滋賀県八日市市社会福祉協議会
引　間　正　寛

1993年3月に卒業後、4月より社会福祉法人八日市市社会福祉協議会に就職し、生活指導員として身体障害者デイサービスを担当しています。八日市市社協では八日市市民福祉センターの管理・運営をしており、当センターは社会福祉協議会事務局、ボランティアセンター、ホームヘルパー、身体障害者デイサービス、老人デイサービス、痴呆性老人デイサービス、老人福祉センター、児童センター、母子福祉センター等が入る複合型施設です。センターには障害をもつ人だけでなく、高齢者やこどもたち、母子家庭のお母さ

ん、民生委員やボランティア等、はば広い地域の人たちが来てくださいます。

市民福祉センターを地域の福祉の第一線として、そして情報発信基地としての機能と役割を少しずつでも果たせるようにと日々業務に励んでいます。しかし、4月で社会人として丸2年になりますが、大学で学んだ理論を実践に生かすことの難しさと、逆に理論に裏打ちされた実践の強さを改めて実感しています。特にデイサービスについては、高齢化社会の到来で在宅福祉サービスが注目されはじめて、全国に広がってきていますが、制度として非常に新しく、現在もデイサービスの実践の理論化は定着していません。

先のゴールドプランで設定されたような、中学校区に1か所のペースで1万か所をめざして急増中であるデイサービスは、全国的にみてある一定のサービス水準をすべてのセンターが確保できているとは到底いえません。また特別養護老人ホーム併設型でない、社協委託型の単独デイサービスも増えてきています。在宅福祉サービスが市町村に任され、より利用者の身近で供給できるようになってきましたが、それぞれの市町村の力量により、ばらつきがあるのが現状です。

そのばらつきを克服するために、私たち八日市市の、そして滋賀県の社協型デイサービスにかかわるスタッフも、実践をとおしての研究と理論化をすすめています。八日市市のデイサービスが、滋賀県のデイサービスが全国で注目されるようになるであろうと利用者中心のサービスを念頭において、試行錯誤を繰り返しています。

しかしながら、老人デイサービスは全国で1万か所に増加する見込ですが、私が担当している身体障害者デイサービスはわずか400か所あまりが設置されているにすぎません。身近に身体障害者デイサービスセンターも少なく、研修先や相談相手も広く全国に求めなければなりません。そんな折、ひとつのきっかけで、日本中にネットワークを作ることができました。

1994年3月におこなわれた、第6回社会福祉士国家試験において合格し、5月に社会福祉士として登録し、日本社会福祉士会に入会しました。社会福祉士会で活動するようになり、ある種の仲間意識を持て、全国の社会福祉士と気軽に相談もできるようになりました。

現在、受験資格を取ろうかどうしようか迷っている在学生のみなさんには、ぜひ指定科目だけはとっておくようお勧めします。受験資格を持たない同僚が、貴重な時間と大金を費やし、社会福祉士受験資格をとるために通信教育をはじめています。

社会福祉の業界も、社会の流れと同じく大きく動いていて、制度も複雑、多岐にわたってきています。一人の利用者がいくつもの問題を複雑に絡み合わせてもっていて、ひとつの社会福祉制度だけでは単純に問題解決ができなくなっています。他の専門職と連携し、ケースマネージメントをしていく力量がなければこれからの社会福祉専門職として通用しなくなります。ケースマネージメントを必要とされる職種に社会福祉士の任用資格が要求されてきています。在宅介護支援センターのソーシャルワーカー、社会福祉協議会の専門員、ふれあいのまちづくり事業のコーディネーター等は明文化されました。また今後導入が予想される介護保険についても、社会福祉士が担う役割は大きいはずです。

他大学では、大学ごとの社会福祉士会も組織化されつつあります。近い将来に種智院大学社会福祉士会を組織化できるくらい、種智院大学出身の社会福祉士がこれからどんどん増えることを期待します。（平成5年度卒業）

## 会員消息

### ■訃報

山崎義文師（昭和30年）香川県善通寺市　徳善寺住職、平成6年7月29日御逝去。

禰宜田房雄師（賛助）京都市北区、京都入峰会、平成6年9月7日御逝去。

建林良凞師（昭和12年）善通寺派大僧正。香川県三野町　弥谷寺住職、元善通寺派教学部長。平成6年10月28日御逝去。

原　浩雄師（昭和22年）佐賀県伊万里市報身寺住職。平成6年12月5日御逝去。

石堂恵俊師（大正15年）大本山中山寺名誉管長、大僧正、元大本山中山寺長老。同窓会顧問。平成6年12月21日御逝去。

松本隆寛師（昭和4年）高野山真言宗大僧正。兵庫県加東郡滝野町　遍照院名誉住職。同窓会参

与、六大新報前主幹、元京都専門学校学生監。昭和52年密教教化賞受賞。平成7年1月5日御逝去。

阿部本宣師（昭和6年）善通寺派大僧正、元善通寺派宗務総長。元香川県津田町長。同窓会参与。平成9年1月7日御逝去。

富永龍心師（昭和50年）大本山須磨寺蓮生院住職。平成7年1月17日、阪神大震災により御逝去。

## 会員短信

田中純應師（昭和24年、洛南高等学校・同付属中学校長）『いのち輝く』を刊行。

宮本真光師（昭和14年、佐賀県北波多村　正福寺住職）平成5年12月1日付、醍醐派教学部長に御就任。

長谷川隆憲師（昭和36年、北海道幕別町　真隆寺住職）平成6年10月22日、東寺派宗会議員に選出。

三好祥徳師（昭和58年、醍青連事務局長）平成6年11月13日、大本山観音寺（香川県丸亀市）第五十三世院家の晋山式を挙行。

田居龍空師（昭和32年、大津市　正法寺住職）平成6年12月21日、八大龍王堂再建、上棟式執行。

## 大学だより

### 綜芸祭

平成6年11月21日(月)開催。今年は建都1200年の年であり、また、綜芸祭の名称となって10周年にあたる。テーマは「豆の意地」とし、小さな大学の少ない学生数でも、これだけのことができるという、力強い宣言でもあった。綜芸祭実行委員会（委員長・上出知紀君）によるたくさんの企画に、多数の方々が参加し、盛会のうちにおこなわれた。

展　示・社会福祉研究会、禅定同好会
　　華道部による華展
演　奏・軽音楽部、音智会
　　手話サークル・手話コーラス
模擬店・柔道部、華道部、文芸部
　　ソフトボール部、空手部
　　社会福祉研究会、サッカー部
　　合気道部、禅定同好会
演　武・空手部、合気道部
〔特別企画〕
　　女装大会　審査委員長「レイちゃん」
　　(Mr. レディ)
　　種リンピック、十人百色、居合道
　　スタンプラリー

### 常楽会

平成6年12月16日(金)、常楽会を開催。参加した学生諸君の努力と宗教部の先生方の指導により、近年まれにみるすばらしい法要となった。配役は次のとおり。

| | | |
|---|---|---|
| 導師 | | 今井　圓明学長 |
| 指導 | | 山崎　泰廣教授、添野　智譲講師 |
| 会奉行 | | 真木教日子 |
| 承仕 | | 永瀬　勝也、山下　正喜 |
| 勧請 | | 長谷川芳生 |
| 総礼伽陀 | | 神浦　芳宏 |
| 称名礼 | | 宮津　智稔 |
| 伝供 | （四智梵語） | 藤崎　真吾 |
| | （心略梵語） | 薪田　大就 |
| | （金剛業） | 西　明洋 |
| 祭文 | | 湯通堂法姫 |
| 舎利講 | （別礼伽陀） | 西　明洋 |
| 如来唄 | | 沖田　憲信 |
| 散華 | | 吉武　春彦 |
| 舎利講 | （讃歎伽陀） | 峯　潤雅 |
| | （和讃） | 羽柴　照顕 |
| 釈迦念仏 | | 野間口将智 |
| 唱礼 | （導師） | 今井　圓明学長 |
| 前讃 | （四智梵語） | 藤崎　真吾 |
| | （心略梵語） | 薪田　大就 |
| | （駄覩讃） | 島田　大観 |
| 釈迦念仏 | | 野間口将智 |
| | （四智漢語） | 池田　航 |
| | （心略漢語） | 村上　秀光 |
| | （仏讃） | 山田　智 |
| 至心廻向 | | 島田　大観 |
| 舎利講 | （舎利讃嘆） | 中原　康雄 |
| | （舎利礼） | 篠崎　真邦 |
| 奉送 | | 松尾　充雄 |
| 廻向伽陀 | | 松尾　充雄 |
| 称名礼 | | 宮津　智稔 |
| 職衆 | | 玉木　良恵、木　原圭一 |
| | | 川原　一修、石山　陽律 |
| | | 福田喜代隆、森本　礼昭 |

福永　陽子

〔企画〕中野兵庫、中島由貴江、増田恵子、福本智江、新庄谷琢己、日下部方美、黒岩桜児、高見弥生、永井順子、阪口明弘、高橋吉信、上出知紀、大西　渉

法要終了後、綜芸祭実行委員会の諸君により、お茶席も設けられ、盛会であった。

## 種智院大学公開講座

〈密教文化シリーズ〉

4月21日（金）　本学教授・文博　頼富　本宏
「地震とマンダラ」

6月21日（水）　本学専任講師　野口　圭也
「インド密教とマンダラ」

7月21日（金）　奈良国立博物館　阪田　宗彦
「密教法具の世界」

9月21日（木）　本学助教授　児玉　義隆
「種子マンダラ」

※いずれも午前11時30分～12時30分、本学講堂にて開催。

## 御修法　本学関係者（敬称略）

| | | |
|---|---|---|
| 二間観音供 | 大覚寺門跡 | 上井寛圓（昭和7年） |
| 呪頭 | 仁和寺門跡 | 吉田裕信（昭和24年） |
| 伴僧 | 智積院化主 | 高井隆秀（名誉教授） |
| 舎利守 | 朝護孫子寺管長 | 田中真瑞（賛助） |
| 聖天供 | 随心院事務長 | 市橋眞明（昭和25年） |
| 伴僧 | 教王護国寺 | 東田教範（昭和24年） |
| 承仕 | 仁和寺 | 小田信明（昭和60年） |
| | 朝護孫子寺 | 今野本證（平成2年） |
| | 中山寺 | 岩崎豊海（平成元年） |
| 随行 | 教王護国寺 | 吉武裕信（昭和60年） |
| | 泉涌寺 | 小林孝純（平成元年） |

## ×××学生自治会の地震救援×××

本学学生自治会（会長・岡村　智君）では、1月17日の「兵庫県南部地震」に対し、18日にも「地震救援対策本部」（代表・湯通堂法姫さん）を設け、義援金募集、救援物資の調達・搬送することを決議。1月21日の御影供では、北門等において積極的に募金活動を実施。その後、学内において関係者の協力を得て、募金、救援物資の搬送等を行った。その結果、募金総額は370,293円に達し、本学の被災学生への見舞金及び日本赤十字社の募金に役立てた。

今回は、非常に速い対応をみせ、その功績は著しいものがあった。

## 第43回　卒業証書・学位記授与式

平成7年3月15日（水）春暖ひとしおの良き日、第43回卒業証書・学位記授与式が本学講堂にて挙行された。式は桂泰三学生部長の司会で進行。山崎泰廣宗教部長の御法楽ののち、北村太道図書館長により、卒業生67名の一人一人の名前が呼び上げられ、今井圓明学長より代表阿久津尚央君に卒業証書が授与された。また、今井学長より、賞典授与もおこなわれ、今年度は昨年度に引き続き多くの方に賞が授与され、学生諸君の熱意が反映される結果となった。

「学長告辞」において、今井学長は、卒業生の熱意を讃え、大学改革に寄与されたことを述べ、その志を大学が受け継ぎ、発展をはかることを誓う旨述べた。また、来賓を代表して吉田裕信理事長より祝辞が述べられ、卒業生の前途を力強く励まされた。この式には、田中純應洛南高等学校長も出席された。

在学生代表による送辞は自治会長の田原剛君、卒業生代表の答辞は河村俊介君であった。

式終了後は、コースごとに記念写真を撮影。さらに、京都グランドホテルにて「卒業生送別懇親会」を開催。別れを惜しみ、新たな出発を誓いあった。

なお、各賞は次のとおり。

| | |
|---|---|
| 学業賞 | 河村俊介（仏教福祉学） |
| 論文賞 | 須方　稔、和気正真（密教学）<br>徳村修宏、長野珠美、山本　剛<br>渡部大輔（仏教福祉学） |
| 高野山出版社賞 | 高山久志（仏教福祉学） |
| 六大新報社賞 | 今里裕美（密教学） |
| 玉蔵院賞 | 井上龍起（密教学） |

【卒業生名簿】

| | | |
|---|---|---|
| 岡本　尚哉 | 高良　剛 | 伊藤　桂 |
| 上田　みか | 大石根俊夫 | 加藤　晃道 |
| 阿部　晋介 | 石橋　誠 | 坂野　淳 |
| 鈴木　克昌 | 高楠　みか | 松井　裕彦 |
| 山方　崇 | 亘　徹太郎 | 上田　慶一 |
| 河原　弘道 | 阿久津尚央 | 足立　豊貴 |
| 飯村　公清 | 石田芙佐子 | 井上　和人 |
| 井上　龍起 | 今里　裕美 | 植野　剛司 |
| 奥居　公嗣 | 奥野　隆章 | 織田　淳一 |

川崎　猛　川浪　三浩　河村　俊介
岸本　克己　北田　智明　佐伯　良昌
猿田　久夫　須方　稔　高山　久志
滝山　尚　田口　恵也　玉久　朋澄
寺元　静俊　徳田　秀満　徳村　修宏
友延　佳正　中澤　琢夫　長野　珠美
野田　博昭　濱崎　甚　平野　善彦
平松　朝径　藤原　一登　風呂　明宏
麻殖生　修　松山　敏明　宮原　大地
村上健三郎　室谷　克幸　薬師寺　弦
山本　剛　山本　義彦　横内　道広
吉井　直之　吉岡　勝　和気　正真
鷲田　晶一　渡部　大輔　阿刀　弘明
三嶋　香

## 東寺中学同窓会

―昭和19年4年修了生・同20年卒業生―

平成6年11月7・8日、有馬温泉にて開催。毎年の開催を確認。次回は平成7年秋、京都で開催予定。

◎出席者（関係分・順不同、敬称略）

川村　俊朝　坂本　光聡　高井　実成
法本　弘文　蓮沼　雅春　松崎　隆雄
斎藤　良秀　藤井　周一　松葉　久
藤沢　宥彰

## 学園加行（後期）無魔成満

学園加行（後期）は、平成7年2月5日（日）より3月14日（火）までの日程を無事終えた。参加者は、前期と同様、熱心に一日一日の行を勤め、成満の喜びをかみしめた。今回も、大本山大覚寺様の暖かい御理解、御協力を頂いた。成満の日には、門跡上井寛圓大僧正猊下より御染筆を賜り、宗務総長岡田高功先生より記念品を頂いた。参加者一同、感激も新たに、宗門の伝統を守り抜く決意を固めたことであった。また、大覚寺教学部長新城密雄師、学監宇喜多隆暁師からは、御懇篤な御指導を頂いた。大学からは今井圓明学長、頼富本宏学部長、山崎泰廣宗教部長はじめ、宗教部の教員、職員が交代で出仕した。また、前期同様、卒業生の方々により、加行の監督・指導が行われ、たいへん充実した学園加行とすることができた。本山、大学、卒業生が一体となって取り組んだ加行は、今後の種智院大学のあり方を指し示すことにもなるのではないか。

学園加行関係者（順不同・敬称略）

〔加行参加者〕玉久朋澄、石山陽圓、久野本有、山田知圓、島田大観、田中密敬、道成亮範、広浜哲生

〔指導〕杉崎圓覚、鳥越英徳、東　常禎、天野智文、加藤隆三

〔大学〕野口圭也、都筑大乗、宇垣泰明、沖津祐照


「西院流能禅方伝授録」全七巻
加藤宥雄編　定価　六五、〇〇〇円

「八結・金玉・異水伝授録」全一巻
加藤宥雄編　定価　一三、〇〇〇円

「西院流伝授手控」
土宜法龍筆写
加藤宥雄筆　定価　二、〇〇〇円

「堂上儀西院流傳法灌頂教授手鑑」
加藤宥雄筆写　定価　三、〇〇〇円

「東寺定額僧院之血脈相承次第」
定価　八〇〇円

「密教の世界―不動明王と荘厳―」
定価　一、五〇〇円

高井隆秀教授
還暦記念論集『密教思想』
定価　八、〇〇〇円

種智院大学密教学会
京都市南区壬生通八条下る東寺町五四五
☎(075)六八一―六五一三　〒六〇一
振替京都〇―三〇三八